

ミステリーツアー中部 2021



2021 年 11 月

旅のチカラ研究所 植木圭二

妻とミステリーツアーに行ってきた。ツアー名称は「2 名参加限定 往復グリーン車利用 当社基準最上級 S ランクホテルと 5 つ星の名旅館に泊まるミステリーツアー3 日間」で、当然何処に行くかは分からない。私にはある程度行先が推測できたが、あえて調べることもなく参加した。

■集合、出発、最初の訪問地

集合は東京駅 8 時 10 分、私たちは 8 時前に着いたが、既に多くの参加者が受付を済ましていた。その時に聞いた参加人数は 40 人というから驚いてしまう。緊急事態宣言が開けて新型コロナウイルスの感染者も大幅に減少しており、待ちに待った多くの旅行好きの参加申し込みによって当初の予定人数を大幅に増やした感がある。

ここで初めて最初の目的地は長野駅だと聞かされる。やはり北陸新幹線に乗るのかと思って聞いているとグリーンの車両は限定されているので 40 人が同じ列車に乗るのは不可能で 2 つの列車に分かれるという。添乗員は一人しかいないので、添乗員が引率するグループと自力で長野駅まで行くグループになる。このツアーは 65 才以上限定ということで高齢者が多い。私たちは添乗員と一緒に、自力組は不安そうに改札に向かう。

添乗員は女性で年は 50 才くらい、張り切りおばさん、いや失礼、張り切り姉さんだ。どうでもいいことかもしれないが独身のような。そう推察する理由はお洒落に気を遣っているからで、髪型は昔のアイドルのようだ。そのお洒落さとは対照的に大きな声を張り上げてお客を誘導している姿は実に頼もしい。

張り切り姉さんの奮闘もあって全員無事に長野駅に到着する。

そしてすぐに昼食になる。場所は長野駅に隣接する「ホテルメトロポリタン」のレストランで、昼食ビュッフェの看板を見ると一般客にも 1980 円で提供している。

それにしてもまだ 11 時を回ったところであまりに早い。これは旅行会社とホテルとの思惑が一致した結果なのだろうと私はうがった見方をしてしまう。ホテルにとっては 12 時前に終わるから、一般客の来店にあまり影響せずに 40 人分の売り上げになる。旅行会社にとっても混雑なくほぼ貸し切りで食事ができ、これだけの人数が一般客来店前に帰るのだから相当安価になるはずだ。

長野駅から大型観光バスに乗る。以降同じバスでの移動になり、帰りはどこかの駅から新幹線グリーン車に乗って東京駅に戻ることにしか知らされていない。

長野駅から約 10 分という最初の訪問地は善光寺だ。

これはミステリーツアーで立ち寄るような場所ではないだろうと私が思っていると、そのことを一番感じているのは張り切り姉さんらしく、彼女は長野県立博物館がリニューアルオープンして、その屋上から見る善光寺が最近の長野県民のトレンドだ、などと苦しい言い訳をしている。それにしても横から見る善光寺は、奇妙でそれらしくない。



【善光寺を長野県立博物館の屋上から見る】

■金太郎温泉に泊まる

善光寺から高速道路を使ってバスで約 3 時間、たどり着いたのは富山県魚津市の郊外の小高い丘の上にある大きな宿「金太郎温泉 光風閣」だ。富山湾に行くことはほぼ確実と思っていたので驚きはないが、この宿に私は初めて泊まる。もちろん存在さえも知らなかった。

日帰り入浴施設を併設している宿で乗用車がたくさん駐車しており、館内に入ると「5 つ星の宿」、そして「プロが選ぶホテル・旅館 100 選」で選ばれたと認定証が飾ってある。

金太郎温泉という名前から神奈川県足柄地方の金太郎伝説に関係しているのか、と私は思っ
て宿のスタッフに聞いてみると全く関係ないという答えが返ってきた。創業者は体が弱く、この温泉に浸かって治したので多くの人に温泉の治癒力で金太郎のように元気で丈夫になって欲しいという気持ちで命名したという。

早速その元気の出る温泉に行ってみる。ホテルの宿泊者専用の大浴場と日帰り入浴者用の大浴場があって、もちろん両方に入ることができる。日帰り入浴者用の方が広くて浴槽も多く、サウナも露天風呂もある。この 2 つ大浴場の浴槽の数を数えると合わせて 9 つにもなるが、そのひとつひとつが大きい。

浴槽の広さと数もさることながら、泉質は私好みだ。食塩泉と硫黄泉が混合している「含硫黄・ナトリウム・カルシウム・塩化物泉」で高張性・中性・高温泉と表示されている。硫黄泉なので硫化水素のあの“卵の腐ったよう臭い”が強い。高温で湯量豊富なのでもちろん源泉かけ流し、そして食塩泉なのでしょっぱい。最も注目すべきは高張性の温泉なので溶存物質が多い、つまり温泉の濃度が濃い。成分表を見ると日本の温泉法による基準の 16 倍もある。これは効きそうな温泉だと私の肌が感じている。

この湯に浸かっていると創業者が元気になった理由がよく分かる。そのためか地元の人にも人気らしく、日帰り温泉の利用者が半端でないほど多い。



【立山連峰を連想させる内湯と庭園露天風呂 宿の公式 HP より】

5 つ星の宿、ホテル・旅館 100 選という評価は伊達ではないと思って、宿を後にする。

■北前船で賑わった岩瀬地区

金太郎温泉を堪能して、そこから比較的近い富山市の神通川河口付近の「岩瀬地区」にやってくる。北前船の寄港地の船主集落とう場所で、私にとっては始めて訪れるところだ。この案内には 83 才のボランティアガイドが付いて説明してくれるというのもありがたい。

この岩瀬地区は北前船によって相当儲かったようで、森家の土蔵などを筆頭にその面影が随所に見られる。

そもそも船主はそんなに儲かるのか不思議だったが、ガイドの説明で私は納得する。

通常は船には船主と荷主が存在するが、それはチャーター船の場合で北前船はそうではない。いろいろな品物を何処に持って行って売れば儲かるという目論見で荷を買い付けて運んで現地の業者に売るといふ商売は廻船問屋というが、その廻船問屋が荷主になり、それが船主と一体となっているのが岩瀬地区の船主ということで、儲けが半端でない理由がそこにある。

それら船主の豪邸が建ち並び、それ以外に食事処や銀行、病院などが街の雰囲気と同化するように古風な感じで建っている。もちろん現役施設なので今でもその役割を果たしている。

通りに面した家の一階開口部は竹で横に細かく組まれたスムシコ（簾虫籠）と呼ばれている格子がある。このスムシコの特徴は、昼間は外から家の内部を見ることは困難だが、内部から外は良く見えるというもので、多くの家で使われている。

銀行でもスムシコを使っているので実際に中に入ってみるとそのとおりで、中からは外の通りの様子が非常に良く見える。夜になるとその逆で中が丸見えになるので雨戸をするというから昔の人の知恵と工夫はたいしたものだと感心する。



【銀行の入口のスムシコ】



【スムシコの内側から外を見る】

■ 白川郷を歩く

昼食は富山湾で獲れた魚介類をふんだんに使った海鮮丼だ。普通の海鮮丼はキュウリや玉子焼きなどの海鮮以外にもものも入っているが、この海鮮丼は海の幸だけしかなく、そしてボリューム満点なのが良い。

昼食後、バスは高速道路を南に向かう。約1時間半で着いたところは合掌造りで有名な世界遺産の「白川郷」で、私にとってはやや拍子抜けだ。それはあまり知られていない名所を期待していたが、善光寺と同じで「ミステリーツアーで世界遺産に来るかぁ」という落胆の気持ちになる。

それでも富山湾から1時間半で来られたことに多少の驚きがあつて、さらに案内には専門の現地ガイドが付いてくれたのはせめてもの救いかもしれない。個人旅行の場合には滅多に頼むことがないので、いい勉強になった。

その勉強になったことを2つ紹介する。

ガイドは世界遺産の申請にもたずさわっていたとのことで、当時のことも詳しく説明してくれた。とにかく当時は世界遺産について知っている人が国内にいないのでパリにあるユネスコ本部まで聞きに行ったというから凄い。

そして白川郷の特徴である屋根の構造を如何に説明するかが問題になり、合掌した時の腕の形から「合掌造り」という言葉を創ったという。私はもっと昔からある言葉だと思っていたが、彼の説明によれば白川郷の世界遺産登録は1995年なので、その数年前にできた言葉になる。

さらに申請しようとしたら富山県の五箇山にも同じような合掌造りがあるから加えて欲しいと頼まれたので、それゆえ申請が1年遅れたと話している。

そして茅葺き屋根の白川郷の最大の敵は火事ということで、火災予防はもちろん、消火活動に力を入れている。国の補助金を何に使うかを検討したが、全て消火設備に使ったというから徹底している。

その消火設備、消火銃を見せてもらう。

消火銃は消防団員しか使えないので困るので、近くの住民も使えるように訓練している。そのために毎年消火訓練をしており、一斉に放水する風景は有名だとその写真を見せてくれた。しかし事前に日程を知らせたら報道陣のカメラの三脚ばかりになったので、現在は日程を公開していないという。



【放水銃が格納されている小屋】



【格納されている放水銃】

■ホテルアソシア高山リゾートに泊まる

白川郷から富山に戻るのかと思っていたら、バスは南下した。

パンフレットでは2日目の宿はSランクの宿で風呂からの眺望が自慢だとあるが、私が知っている温泉としては下呂温泉くらいしかない。しかし下呂は遠いし何処に行くのかと思っていたら飛騨高山に着いた。

そして本日の宿「ホテルアソシア高山リゾート」に着いた。この宿はオープンして間もない感じでかなり新しい。従業員も若い人たちが多くいるように思える。飛騨高山の市街地を見おろす高台にあって、この眺望をインフィニティ風呂から眺めるといふ写真がミステリーツアーのパンフレットに載っていた。

インフィニティ風呂とは、浴槽の縁までお湯が並々張られて無限にお湯が外に溢れ出ているように見える風呂のことで最近流行りに湯船になっている。

早速大浴場に行ってみると、一応インフィニティ風呂ではあるが思っていたのよりも小さい。パンフレットの写真のような雄大さが無い。いや、これは写真を撮ったカメラマンの腕を褒めるべきかもしれない。

やや興ざめしながらも湯加減はちょうど良い温度になっており、景色を眺めながらの長湯には適している。他にも浴槽がいくつもあってサウナも付いている。サウナ大好きな私にとってはありがたい。

夕食は可もなく不可もなく、特に印象がない。いや印象といえば、瓶ビールの中瓶が 950 円もしたのが強烈だった。それでもサウナ上がりの私には至極の一杯になった。

夕食はともかくも、朝食には憤慨する。指定の 7 時を少し過ぎて会場に行くと既にお客が何十人も待っている。コロナの影響で密の回避もあるかもしれないが、入場制限で待つこと 20 分とは驚きだ。ディナーならばとにかくビュッフェスタイルの朝食でこれはおかしい。朝食会場の収容人数に対して宿泊客が多く、そして集中したのが原因だが、宿泊者の人数は分かっており事前に時間調整も可能なのにまるで無策だ。何しろ私たちの出発時間は 9 時 30 分なのだから手の打ちようがあるだろう。その意味では旅行会社側にも非があるのかもしれない。

こんな立派な設備や多くの従業員、それも若い従業員を抱えてこの有様ではあまりに情けなく、落胆せざるを得ない。おそらく無言で待っているお客たちも怒り心頭だったに違いない。

それでも朝食会場で面白いものを見つける。

自動ご飯盛り機とでもいうもので、ご飯茶碗を機械の下に置くと軽めに一杯をふんわりとよそってくれる。“よそる”といよりも“落とす”という感じだが、私はこのような機械に初めてお目にかかった。

コロナ禍で接触を避けるために色々なものが開発されたが、その最たるものかもしれない。

さすがに S ランクホテルだけあって設備は最新のものをそろえている。



【自動ご飯盛り機】

■飛騨高山から安曇野

本日最初の観光は飛騨高山の古い街並みの散策になる。ガイドは付いていないので張り切り姉さん添乗員が観光名所の三町筋の散策を 10 分間くらい付き合ってくれて、あとは街の真ん中で自由行動になる。私たちは正午まで開かれているという朝市をぶらつく。

私たちが歩いていると多くの修学旅行生とすれ違う。最近の飛騨高山は修学旅行での人気が高いと聞いていたがそのとおりだ。何人かに何処からきたのかと聞くと、〇〇市の××中学と答えてくれる。全て中部圏、関西圏の学校で比較的近いところから 2 泊 3 日くらいで来ている。

質問したある中学生から「お元気で！」と言われたのが、ややショックであった。私たち夫婦も高齢者なのかと改めて思い知る。

飛騨高山から山越えをして長野県松本市に入り安曇野の蕎麦屋に到着する。ここで昼食になる。バスは長野ナンバーだったので長野県に戻ることは予想していたが、そのとおりだった。

それにしても本場の蕎麦はさすがに美味い。

テーブルに置いてある一般客向けのメニューではざる蕎麦単体で 980 円になっているが、私たちにはその他にアヤメの塩焼き、お焼きや山菜も付いている。ついでに生卵とご飯は食べ放題になっている。

人間とはあさましいもので全部食べないと気が済まず、無理して食べた結果、昼から超満腹になる。

昼食の後はバスに乗ること約 5 分で、「大王ワサビ園」という大きなワサビ農園にやって来る。私はワサビといえば静岡、それも伊豆半島だと思っていたが、常識が覆った。いや、その常識は“ある時期”までは正しかった。

添乗員の話ではかつてワサビは伊豆でしかできないと思われていたが、“ある時期”にその伊豆のワサビが不作になって代替え地を探したら、条件に合致したのはこの安曇野だったという。その結果、蕎麦にワサビという最強タッグが安曇野に生まれた。

それにしてもこのワサビ園の大きさに驚く。1km 先まで延々とワサビ園が続く風景などは伊豆ではお目にかかったことがない。



【ワサビ園 1km 先まで続く】

その後は真田の里の上田駅までバスで走って、上田駅から再び新幹線グリーン車で東京駅に戻って解散になる。

私にとっては何か物足りなさを残した 3 日間であった。

■ミステリーツアーを振り返る

その物足りなさについて、少し考えてみる。

私は過去 2 回、旅行会社が主催するミステリーツアーに参加した。それは旅で知り合った人から、「知らない穴場に連れて行ってくれるから面白いよ」という言葉が発端になっている。

辞書でミステリーツアーをひいてみると、大きく 2 つのパターンがあるという。まずは参加者が行き先を知らされない団体旅行で驚きと新鮮さを与えるもの。もう一つは旅行と謎解きを組み合わせたイベントで、参加者は推理小説の謎解きをする主人公になったつもりで楽しめるというものになる。

今回のものはもちろん前者になるだろう。では、驚きと新鮮さはあったのだろうか。

確かにそれはあった。富山の岩瀬地区、安曇野のワサビ園は私に驚きを与えてくれた。東海北陸自動車道によって日本海側の富山から白川郷、飛騨高山まで足を延ばせたことも新鮮かもしれない。この道路は 2008 年全線開通だが一般的にはあまり知られていない。

しかしその反面では善光寺、白川郷、飛騨高山といえば観光地の定番で驚きもない。おそらく今回の参加者で初めて行った人は極めて少ないだろう。ミステリーツアーに参加する人たちは日本国内の観光名所はひととおり行っており、さらなる感動や刺激を求めて参加している。私を含めて参加者たちはこの 3 つの観光地は興ざめだったに違いない。まあ、興ざめと言い過ぎだが、期待を裏切られたのは確かだろう。

とは言っても日本国内それも首都圏からある程度近いエリアで行ったことのない観光地などは、そうはないだろう。それならばむしろ時間をかけて堪能する方法を考えた方が良いかもしれない。例えば民宿になっている合掌造りの家に泊まれば、夜寝る時、朝起きた時に合掌造りの暮らしを五感で感じられるだろう。

ツアーを企画する側には難題になるのだろうが、実はそれが旅行企画の醍醐味であり、やり甲斐ではないだろうか。

私も時々旅行を企画するが、同行者の驚きや感動が何よりも嬉しい。

そして今私は、もう一つはミステリーツアーである謎解きを組み合わせた推理小説のような旅行をしたくなった。いずれは旅のチカラ研究所でも主催してみたい。

■温泉評価委員会

私は温泉宿を評価する温泉評価委員会、通称「おひよい」を立ち上げている。それは温泉宿に泊まった時に組織される勝手気ままな委員会で、委員は同行した人になる。何が良かったとか悪かったとか、あれこれ話し合って各項目を 5 段階で評価し、委員会として評価値を算出する。

評価の基準は、5 は驚き感動、4 は普通に良い、3 は可もなく不可もない、2 は普通に悪い、そして 1 は失望落胆としている。

総合点（平均値）で 5 段階の 75%、つまり 3.75 をオススメの目安としている。特に 4.00 を超えるには驚き感動が少なくとも 1 項目以上あるからオススメ度は高い。

「金太郎温泉 光風閣」は泉質 5、風呂 5、料理 4、コスパ未評価、サービス 3、建物・部屋 4、立地環境 3、総合点 4.00 になった。コスパは宿代を直接払っていないので未評価にした。

泉質は高張性、中性泉、pH は成分表に載っていないが中性なので pH6~7.5 だろう、湧出温度は 73℃になっている。

「ホテルアソシア高山リゾート」は泉質 3、風呂 5、料理 3、コスパ未評価、サービス 1、建物・部屋 4、立地環境 4、総合点 3.33 になった。コスパは宿代を直接払っていないので未評価にした。サービスの評価が低いのはやはり朝食の待ち時間が影響した。

泉質は成分表が掲示されていないので、フロントで聞いたところ、低張性、弱アルカリ性、pH は不明、湧出温度は 26.4℃、単純温泉と言っていた。このことから湧出温度 25℃以上という温泉法の基準をкаろうじてクリアしただけの温泉で、溶存物質などは温泉法の定義に満たないらしい。

■旅の記録

1 回目の実施は 2021 年 11 月 13 日（土）～15 日（月）の 2 泊 3 日、その行程を以下に示す。

- ・ 1 日目 6 時 30 分に自宅を出て、8 時前に東京駅の集合場所に到着
8 時 44 分の北陸新幹線グリーン車に乗り、長野駅 10 時 19 分に到着、
駅に隣接する「ホテルメトロポリタン」でビュッフェスタイルの昼食、
12 時 10 分に昼食会場を出て観光バスに乗り（以降同じバスで移動）、
12 時 30 分に善光寺到着、見学約 1 時間、
再びバスに乗り約 3 時間後「金太郎温泉 光風閣」到着、宿で夕食
- ・ 2 日目 9 時 30 分に宿を出て、10 時 30 分富山市岩瀬地区に到着、約 1 時間の散策、
11 時 50 分「新湊きつときと市場」到着し約 1 時間の昼食、
昼食後バスに乗り 14 時 20 分に白川郷到着、約 1 時間見学、
16 時 30 分「ホテルアソシア高山リゾート」に到着、宿で夕食
- ・ 3 日目 9 時 30 分に宿を出て、10 分後に飛騨高山市の中心地に近い「神明駐車場」到着、
約 1 時間の自由行動で飛騨高山の三町筋、朝市を見学、
国道 158 号経由で 13 時 30 分松本市安曇野の食事処「ごぼーでん」にて昼食、
近くのワサビ園「大王わさび農場」見学、
松本駅発 16 時 37 分で北陸新幹線グリーン車に乗り、東京駅 18 時 12 分到着
19 時 30 分帰宅

費用は夫婦二人の合計で約 15 万円。一人当たり約 7 万 5 千円になった。

- ・ 阪急交通社に払い込み 138400 円（1 人分 69900 円、それに 1400 円のポイント割引）
- ・ 東京駅までの交通費、初日の朝食、飲み物、土産物など約 10000 円（2 人分）